

のアルバム

「見守りの輪」で暮らしを支えます

市では「見守りネットワーク」と題し、市や事業者、団体等と連携して、高齢者や障がい者、子ども、生活困窮者が住みなれた地域で安心して暮らせるための取り組みを進めています。

これは、地域の活動の中で日常の「ちょっとした異変」から困っている人を見つけ、支援につなげていくものです。

今回、この取り組みに協賛し、新たに協定を締結した9事業者、2団体の皆さんをお招きし式典を開催しました。

前回、協定を締結した事業者・団体と合わせて、協定先は23事業者、8団体となりました。

これからも「まち」全体で手を取り合い、「見守りの輪」を広げながら市民の暮らしを支えていきます。

▼2月8日 市役所



▼1月29日 市役所



避難所も快適空間に

市は、新江州(株)とセツカートン(株)の2事業者と「災害時における段ボール製品等の調達に関する協定」を締結しました。

これは、大規模災害が発生した際、避難所の運営等において段ボールベッドと間仕切りなどの物資を効率的に調達することを目的としたものです。

避難所にもプライバシーの確保と快適さが必要となり、段ボールベッドなどの設置は有効と考えています。

平時から防災協力体制を図り、安心・安全なまちづくりを今後も進めていきます。

特殊詐欺などにご注意を！！

守山・野洲市内の事業所や市、警察などで組織する守山野洲地区安心安全まちづくり事業所等連絡協議会が、ザ・ビッグエクストラ野洲店で街頭啓発活動を行いました。

この啓発活動には、滋賀県警察シンボルマスコット「けいたくん」と野洲市観光PRキャラクター「ドウタクくん」も参加し、買い物客に防災や近年増加している特殊詐欺など犯罪への注意喚起を呼び掛けました。

▼1月16日 乙窪



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(162)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

すはら やくし 須原の薬師さん

野洲市須原には、古くから「薬師さん」と親しみをこめて呼ばれる国指定重要文化財の薬師如来坐像が祀られています。切れ長の伏し目に、横一文字に口を引き締めた端正な表情からは威厳が漂いますが、ふっくらとした頬や丸みを帯びた撫で肩はどことなく穏やかな包容力を感じます。11世紀末から12世紀初頭の作とみられ、15年に1度の御開帳のときにのみ、その姿を目にすることができる秘仏です。去年は御開帳の年にあたり、9月17日の朝に御開帳法要の開始の合図である「寄鐘」が撞かれ、須原に響きわたる鐘の音とともに御開帳法要が須原自治会館で厳かに営まれました。

御開帳法要では、須原在住の小学生が代表して縁起を読み上げます。縁起によると、この薬師如来坐像は元弘・建武（14世紀前半）の頃に動乱を避け、延暦寺から東に向かって琵琶湖を舟で渡り、八ッ崎浦に着いたとあります。そこで簡素な庵に安置されていたが、後に伽藍を建立して醫王山福林寺の本尊として祀られたとあります。また、視力を失った弥七が詣でると、たちまち光を取り戻したとも伝わっています。法要には多くの人が出席され、霊験あらたかな薬師さんに手を合わされていました。

さて、明治20年（1887）に行われた御開帳の様子が見られる古文書（『井狩家文書』所収）には、「右ハ十五ケ年々回ニ当リ候間、来ル九月廿二日ヨリ同廿八日迄七日間右本尊薬師如来開帳」とあり、かつては七日間に及んで御開帳が行われていたようです。この古文書は、薬師堂を兼務した西徳院の当時の住職と信徒総代が守山警察署に宛てたもので、「別紙図面之建札当村字日出同郡比留田村字児ゴ職ク合計式本建札致度候間恐乍願上候也」とも記され、御開帳を知らせる建札（立札）を比留田村と須原村に建てたいと願っています。なお、建札の図面からは約2.6mの高さのものが申請されていたことが分かり、御開帳が周辺地域にも広く宣伝されていたことが分かります。左手に薬壺を持つ薬師如来は、病や災いの苦しみから解き放つ仏とされます。須原の薬師さんは、古くから篤い信仰をあつめ、人々のくらしに寄り添い、その祈りを見守り続けてきたことでしょう。

（市史専門調査員 江藤弥生）



平成29年度の御開帳法要の様子

■テーマ展 野洲の古文書(16)「湖と生きる 須原村のくらしといのり」
3月11日(日)まで 休館日：月曜日 ※市民は入館無料



めざせワールドカップベスト8

2019年のラグビーワールドカップ日本初開催に先立ち、日本代表の山本幸輝選手がふるさとの野洲市に表敬訪問されました。

山本選手は、野洲中学校3年生でラグビーを始め、現在、ジャパンラグビートップリーグのヤマハ発動機ジュビロでプレーされています。

市長からワールドカップに向けて目標を尋ねられると「まずは強化選手に選ばれることを目標に頑張りたい。」と語ってくれました。

また、当日は山本選手の母校である県立八幡工業高等学校ラグビー部の皆さん（市内出身選手5人）も参加し、後輩たちに「上をめざすチャンスがあれば迷わず飛び込んで欲しい。」とメッセージを送りました。

山本選手、八幡工業ラグビー部の皆さんのこれからのご活躍を期待しています。

▼1月23日 市役所

